

企業情報
もりやま園株式会社
 業種：農業・林業・水産業
 従業員規模：1～10人

課題分類
 経営判断の効率化・高度化
 生産プロセスの改善

DX実践の目的
 サプライチェーン

農作業をデータ分析し、労働生産性の向上と新商品開発の実現

課題内容

- 100年以上の歴史を持つりんご園である。経営の引継ぎにあたって、将来の事業運営に課題があった。
- 経営を引き継いだものの、園内に何本の木が植えられていて、どこに何の品種があるのか、全く記録がないため**資産内容を把握できていなかった。**
- 将来の継続的な事業運営に不安があった。品種バランスが悪いために作業に繁閑のムラが生じ、労働生産性が低い状況になっていた。

実施概要

- りんごの木1本1本に二次元コードを印刷したタグを付け、情報をクラウド上で管理した。
- 収穫や剪定などの情報を記録する**生産工程可視化アプリ**を導入。作業時にスマートフォンで二次元コードをスキャンして、作業内容(木の手入れ内容・作業時間など)を記録した。
- 収集したデータを基に作業効率や生産性を分析し、品種ごとの収益性を算出した。品種による剪定や摘果などの作業量・収穫時期の違いを収益データと照合し、品種構成の見直しなど効率的な栽培を検討した。

効果

- 資産状況・収益性の把握と作業内容の「見える化」により、収益性の低い品種に手をかける時間や、作業の繁閑のムラを削減。それにより労働生産性を(推定)1200円から2800円(約2.4倍)にまで向上できた。
- データ分析の結果、摘果による廃棄量の多さに気づいた。有効活用の必要性を認識できたことで、シードル(りんごから作ったスパークリングワイン)の商品化という新規事業の立ち上げへとつながった。もともと廃棄していたものが年間4000万円ほどの売り上げへと変わった。

ITツール

【使用ツール】 Agrion果樹 <https://www.agri-on.com/fruits>
 【取り扱い企業】 ライブリッツ株式会社 <https://www.laibliz.co.jp/>
 【ツール概要】 果樹専用の生産工程可視化アプリ

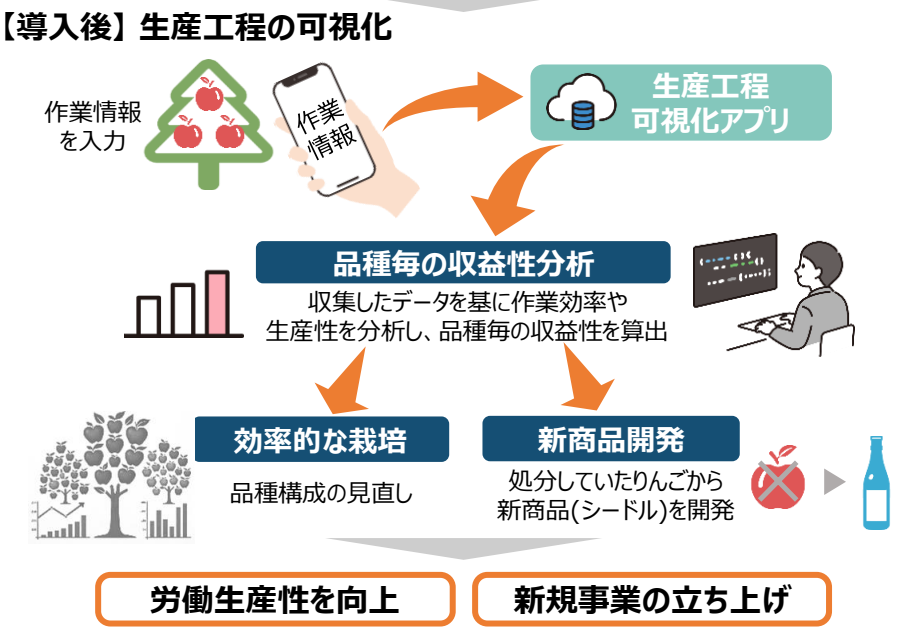
Point

- ・木1本1本の作業情報をデータ管理
- ・データから作業効率と生産性の「見える化」し労働生産性UP (約2.4倍)
- ・データ分析の結果、これまでの廃棄物を商品として販売 (4000万円/年)

【導入前】りんご園の資産状況がわからなかった

何の品種が何本あるのか、資産状況が分からない

作業に繁閑のムラが生じ、労働生産性が低い



補助金活用 商工会議所の「ビジネスアイデアコンテスト」